

2017-2-2

# サルの結腸

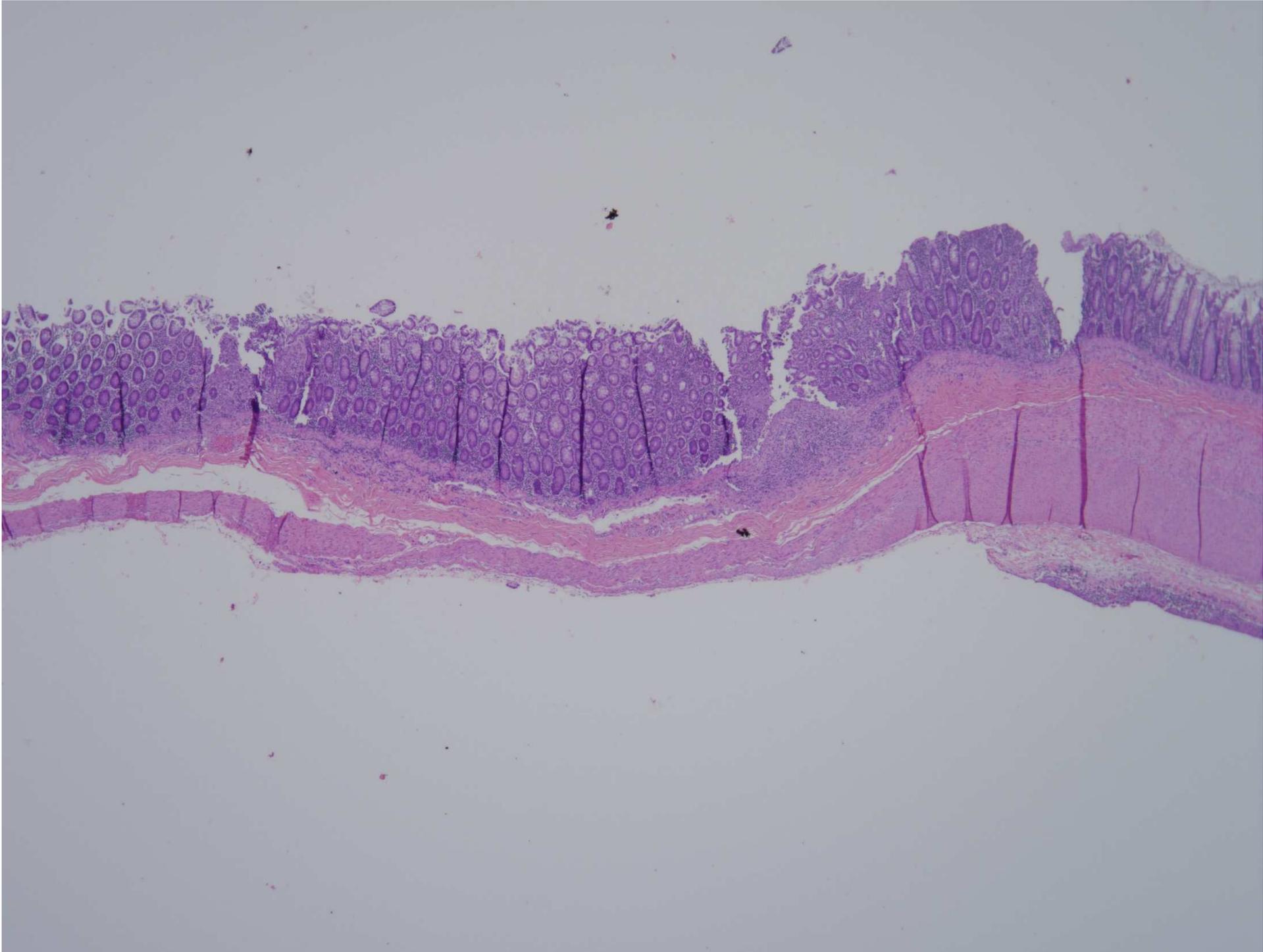
宮本拓也

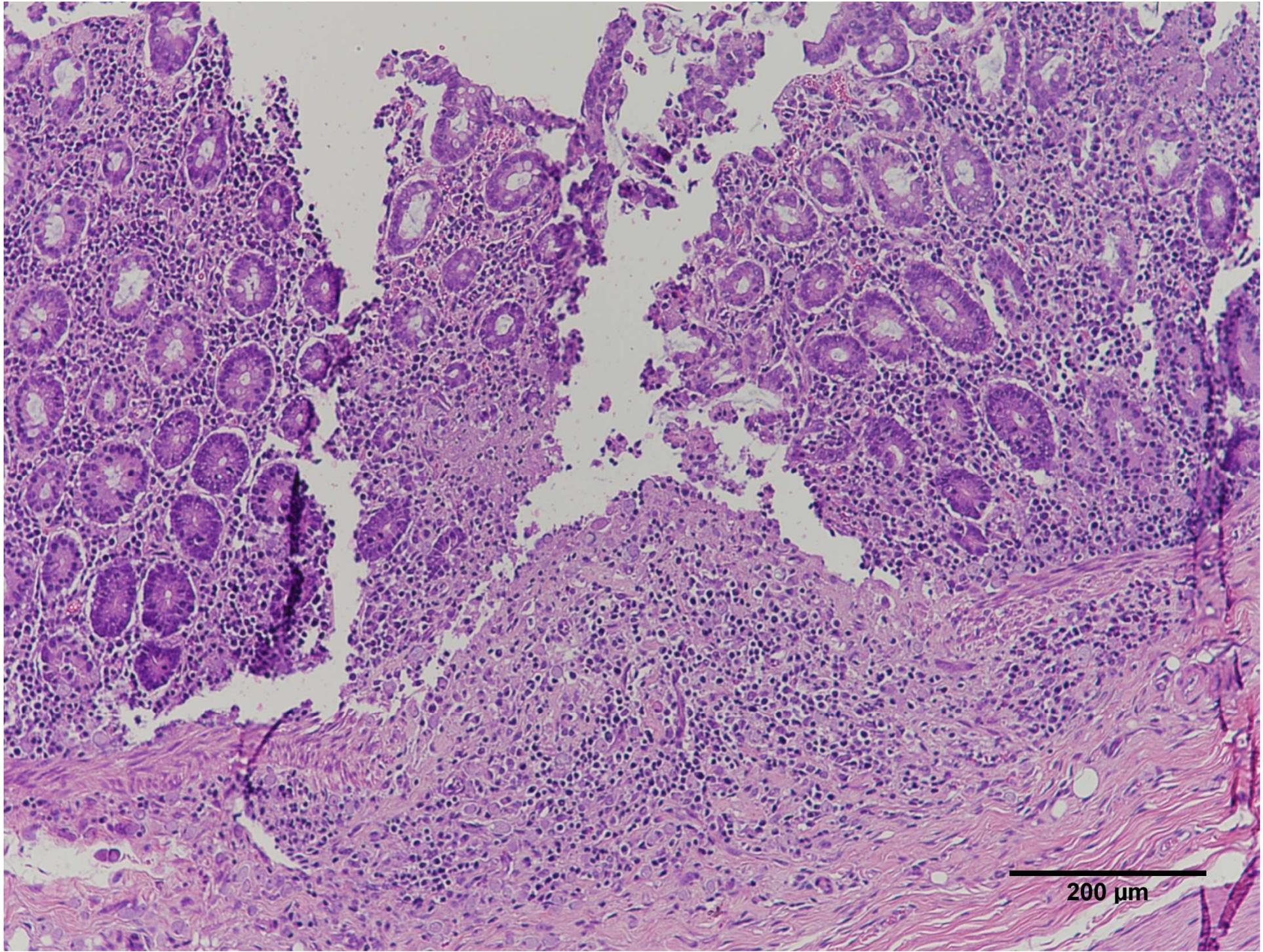
提出機関：MIP Reasearch Corporate Headquarters (USA)

症例：カニクイザル（若齢、雌）

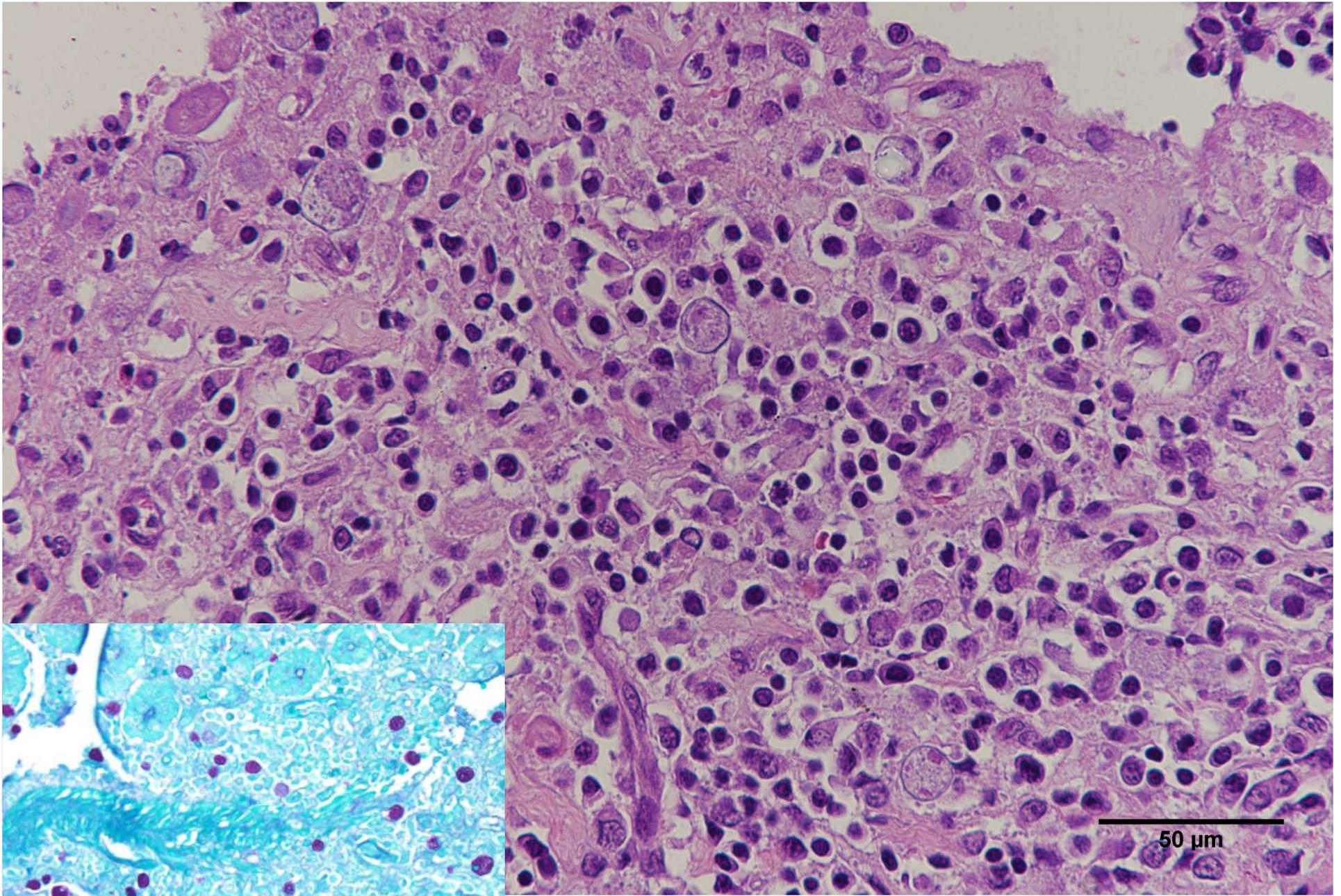
病歴：体重の減少と水溶性の軟便  
低体温でケージの床に横たわっていたため安楽死

肉眼病変：著変なし

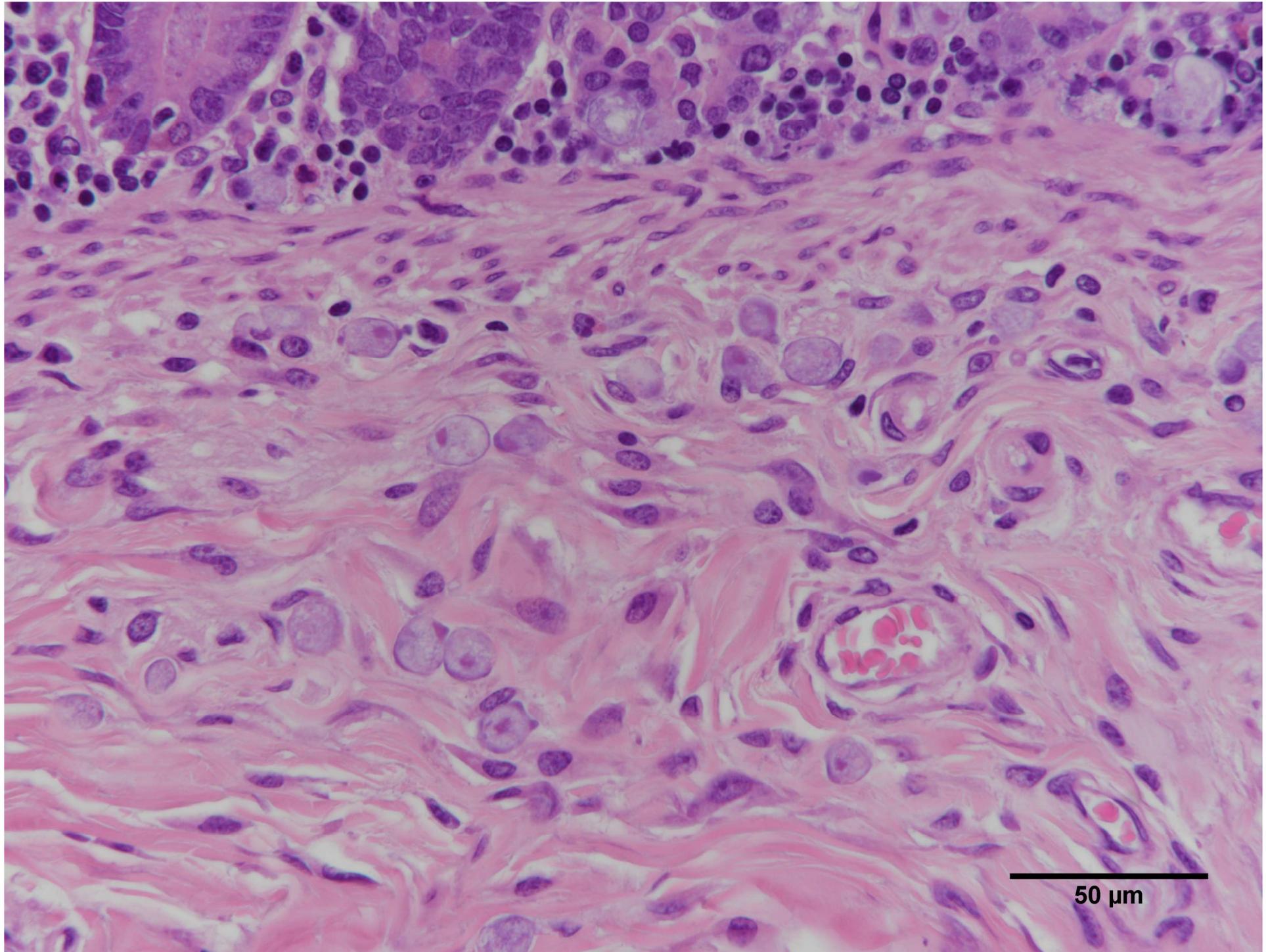


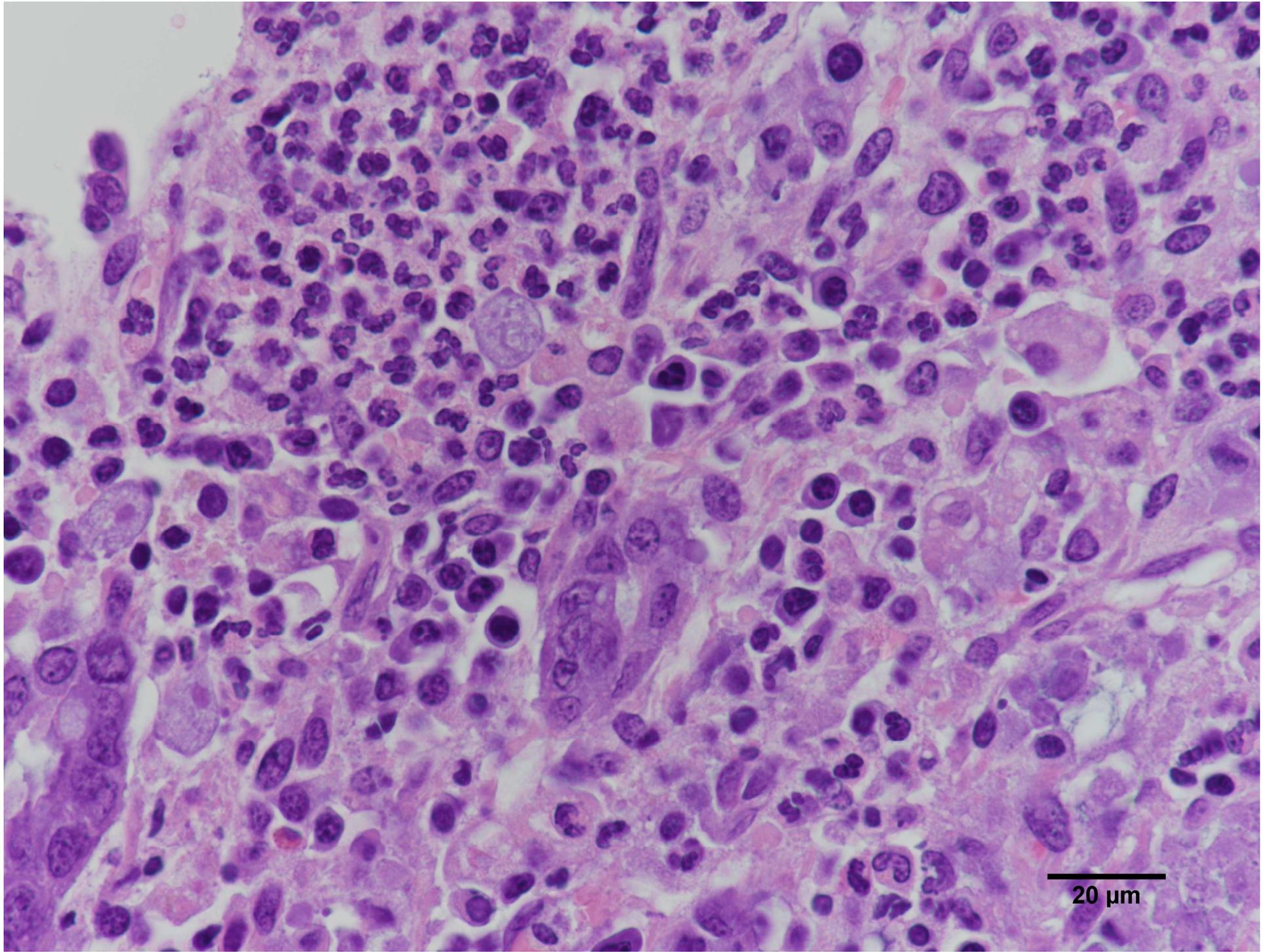


200  $\mu$ m

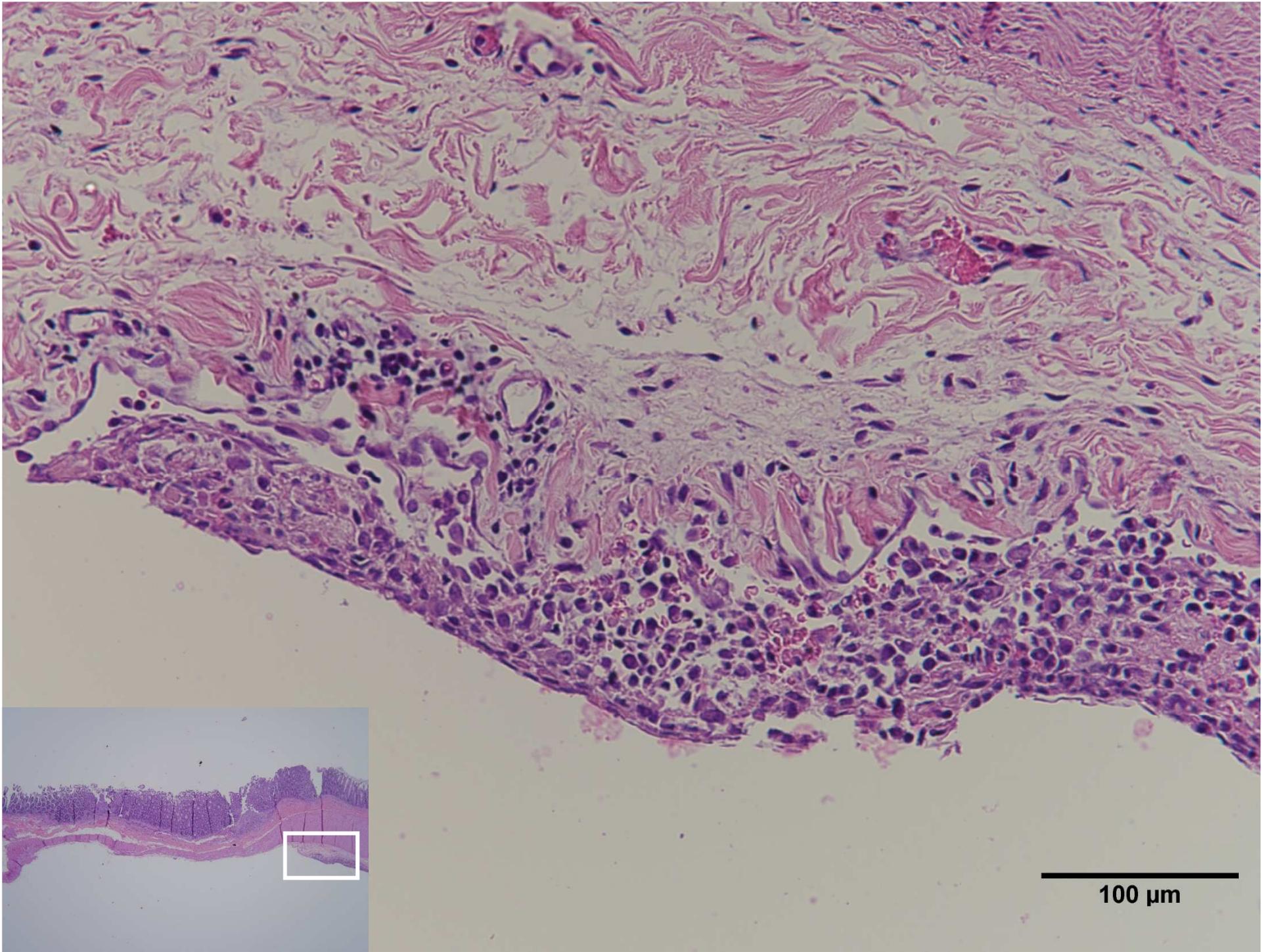


PAS染色





20  $\mu$ m



## 提出者の診断

結腸：急性、多病巣性、壊死性大腸炎。

*Entamoeba histolytica*に一致する病変内の原虫を伴う。

Colon : Acute,multifocal,necrotizing colitis,with intralesional protozoa consistent with *Entamoeba histolytica*

## JPCの診断

結腸：大腸炎、壊死性、多病巣性、中等度。

多数のアメーバの栄養体を伴う。

Colon : Colitis,necrotizing,multifocal,moderate with numerous amoebic trophozoites

➤ *Entamoeba* spp

種	宿主	病変
<i>E. dispar</i>	霊長類、猫、(犬)	非病原性
<i>E. histolytica</i>		出血性腸炎、肝膿瘍
<i>E. natalli</i>	カニクイザル	
<i>E. chattoni</i>		
<i>E. invadens</i>	へび	

➤ 自由生活性アメーバ

- *Acanthamoeba*.sp
  - *Balamoeba mandorillaris*
  - *Naegleria folweris*
- } まれに脳炎を起こす

# 提出者のコメント

## 実験動物における赤痢アメーバ

- 赤痢アメーバは結腸に作用し下痢を起こす
- アメーバ赤痢は人獣共通感染症である
- アメーバ赤痢はストレスや免疫抑制状態で発症
- 光学顕微鏡による *Entamoeba* spp の分類は困難。
- *Entamoeba nutalli* は日本のカニクイザルの研究で病原性が確認  
実験動物のカニクイザルのアメーバ赤痢の主な原因？

# JCPのコメント

## 組織傷害のメカニズム

- ①レクチンによる粘液への付着
- ②粘膜防御の酵素的破壊
- ③宿主上皮へのレクチン介在性の付着
- ④システインプロテアーゼの放出
- ⑤粘膜上皮の傷害と炎症細胞の誘導
- ⑥“フラスコ状”潰瘍の形成



引用：[https://phil.cdc.gov/details\\_linked.aspx?pid=416](https://phil.cdc.gov/details_linked.aspx?pid=416)

- 霊長類は肝臓に移行し肝膿瘍を形成  
肺や脳への転移はまれ
- 上皮細胞のアポトーシスが*E.histolytica*の消化管感染を促している

# JCPのコメント

## 除外診断

- *Shigella flexneri*と*S.sonnei*  
:どちらも壊死性出血性大腸炎を引き起こし、粘膜下組織の潰瘍と穿孔を起こすグラム陰性桿菌
- *Salmonella enteritidis*と*S.typhimurium*  
:一般的ではないが、チフス結節形成を伴う壊死性化膿性腸炎とほかの臓器に化膿性肉芽腫を伴う敗血症を引き起こす
- *Campylobacter jejuni*と*C.coli*  
:銀染色で証明されるらせん菌は、結腸粘膜の中等度の過形成を引き起こす腸管病原体として最も頻繁に分離される
- *Yersinia enterocolitica*と*Y.pseudotuberculosis*  
:壊死性潰瘍性腸炎を伴う大型のグラム陰性菌のコロニーを形成
- *Balantidium coli*  
:大型類人猿に致死的な潰瘍性腸炎を起こす腎臓の形をした巨核を持つ繊毛性栄養体